学校番号	T3017

平成 31 年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書道Ⅱ（教育出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年目の基本を土台に応用へと進め、以下５つの学習に取り組みます。

1　一般実用書
2　水墨画
3　変体仮名を使用した作品づくり
4　筆以外のものを使用しての作品づくり
5　絵の具を使用しての作品づくり

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して,生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに,感性を高め,個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし，書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a：書への関心・意欲・態度	b：書表現の構想と工夫	c：創造的な書表現の技能	d：鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい，書の伝統と文化に関心をもって，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，基礎的な能力を生かし，効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	授業への出席、書道への関心、作品制作プリントの提出状況、実技テストへの取り組み姿勢等の学習態度を評価する。	授業の中での実践の状況やレポート等の内容で評価する。	制作の過程の観察、レポート、提出作品等で評価する。	レポート、授業中の発言内容、発表の内容等で評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5 6 7 8 9	草書 古典臨書 ・十七帖 古典臨書 (条幅) 変体仮名 (散らし書き) キミコ方式の 絵画	草書の基本的な用筆法、字形のとり方を学ぶ 行書と草書を比較し、それぞれの特徴や違いを考え、理解する。 楷書、行書、草書の条幅の作品づくり（16 文字）。 墨、継ぎの工夫をし、調和と文字の流れや空間の差を大切にする。 赤、青、黄、白の４色のみで１点から横へ横へとつなげて誰でも描ける絵。題名をつけることで自己表現力をつける。	○	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	 ○	a:書の伝統と文化に関心をもち，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 b:書の美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。 c:基礎的な能力と，効果的な表現の技能を身に付け表している。 d:自他の作品について良さやおもしろさに気づいている。	制作の過程 の観察 提出作品 作品制作プリント
10 11 12 1 2 3	文化祭出品 の作品づくり ペン字 実用書道 水墨画	筆以外のものを使用し、文字を書き、作品を作る。 のし書き、冠婚葬祭。 竹を描く(色紙作品として仕上げる)。 墨の濃淡と筆の使用方法。 白と黒の調和。	○	 ○ ○	○ ○ ○	○ ○	a:書の伝統と文化に関心をもち，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 b:行書の美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。 c:基礎的な能力と，効果的な表現の技能を身に付け表している。 d:自他の作品について良さやおもしろさに気づいている。	制作の過程 の観察 提出作品 作品制作プリント

※　表中の観点について　a:　書への関心・意欲・態度　　b:　発想や構想の能力
　　c:　創造的な技能　　d:　鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。